

# サンタクロースになって、 子どもたちにもたたちに幸せを

今年も女性いきいき大賞の募集が始まりました。今回は第15回女性いきいき大賞の優秀賞(山口新聞社賞)を受賞した、「サンタプロジェクト It's Nakama(下関市)



「サンタプロジェクト  
It's Nakama」代表の  
東條 麻希さん

## サンタプロジェクト

It's Nakama(下関市)

児童養護施設の子どもたちへのクリスマスチャリティを発端に、月2〜3回程度の施設訪問や施設卒園後の就業支援など、子どもたちの「コミュニケーション」を取りながら、施設の現状を知ってもらう活動を行っています。現在メンバーは8名で、活動は13年目。大人が子どもを守る街・地域をめざしています。

### 子どもたちの

笑顔のためにできること

自身の幼少期に寂しい思いをした際、地域の商店街の人たちに助けられた経験から、今度は自分が子どもたちを支援したいと始めた児童養護施設での「クリスマスチャリティ」。初めは年一回、少人数での活動でしたが、次第に賛同して下さる方がイベントに来てくれるようになり、今では

300人近くの協力があるプロジェクトになったことがとても嬉しいです」と話す東條さん。

クリスマスチャリティ以外にも、児童養護施設への定期的な訪問、企業への就職斡旋、不妊治療・週末里親についてのカフェ開催など、その活動は多岐にわたります。すべての活動の根底にあるのは「子どもたちのため」という想い。「周りから何を言われても、子どもたちが喜んでくれればそれでいい」「子どもたちの笑顔が活動の原動力」となっています。



### 「変わらないこと」で 安心感を与える存在に

子どもたちに「麻希サンタ」と呼ばれていた東條さん。Maki's Santaを並べ替えるとIt's Nakamaに。これは、毎年チャリティを支えてくれるメンバーが考案してくれたそうです。「私が代表として活動していますが、みんなで動かしているプ

ロジエクトなんです」。運営に携わるメンバーや、イベントに来てくれる人、卒園した子どもたちまで、活動を長く続けているからこそその交流がたくさんあります。「活動自体はこれからも進化していくことをめざしていますが、私自身は「変わらないこと」を大事にしています。子どもたちからいつ連絡が来ても、いつも通りに対応して、変わらないで今もそこにいる、安心できる存在になれていたらいいなと思います」。



▲活動の様子

### みなさんの信頼に 応えられるように

女性いきいき大賞には、周りの後押しがあつて応募しました。「受賞後、たくさんの方から「おめでとう!」と言ってもらえたのですが、私は関わってくれたみんなです。た賞だと思っているので、「あなたもおめでとう!」と返すようにしています(笑)。受賞を機に、募金箱を設置してくれるお店が増えるなど、様々な反響があつたそうです。「この活動は一人では続けられませんでした。1回でも参加して下さった方みんながいたからなんだと、賞を頂くことで改めて考えさせられました。信頼に応えられるよう、これからも活動していきたいです」。



▲受賞を喜ぶみなさん

第16回女性いきいき大賞の募集については9ページをご覧ください。